

2023 年度 発達ネウボラプロジェクト

発達障害支援室 訪問研修事業

令和 5 年 8 月 21 日に、女鹿沢小学校で校内研修を行いました。

女鹿沢小学校校内研修2023/8/21

“家庭環境が複雑な子”の支援 ～愛着の問題から考える～

青森病院発達支援室

公認心理師・臨床心理士 齋藤千夏

夏休みの時間をお借りして、女鹿沢小学校において校内研修を行いました。酷暑の中、熱心に学ぼうとされる先生方の熱意も加わり、非常にあつい時間となりました。

“落ち着きがない”“他の子とトラブルになる”“すぐに怒る”“言い訳が多い”など、発達特性を持つ児童も増えてきている中、複雑な家庭環境を背景として適応に支障をきたしている児童もいるのでは?という先生方の疑問から、今回のテーマが決まりました。上記のような行動は、「愛着(特定の人との情緒的な絆)」を上手く作れていないお子さんに特徴的な行動でもあります。研修では愛着形成についてや神経発達症との違い、対応方法などについてお伝えしました。また、「安心でき信じられる大人」として関係を作るにはどうしたらよいか、学校でできる関りを一緒に学びました。先生方の経験と合わせて考えて頂き、「『あの時の行動はこういう意味だったのか』と腑に落ちた」というお声を頂きました。

児童を支えるためには、その家庭も一緒に支えることが必要となります。保護者の方は日々の問題に疲弊し、自分の子育てに自信を失って傷ついている状態の方が多くいます。“困った親”が“困っている親”へと見方が変わり、対教師関係や親子関係が変化すれば、おのずと児童の行動にも変化があります。お子さんへの直接的なサポートに加え、家族支援の重要性を私自身改めて感じる事ができました。

今後も、地域支援、家族支援の輪を広げていけるよう、活動していきます。

文責 齋藤